

2018/10/19

## ワシントン大学短期英語プログラムを終えて

旭川校 社会科教育専攻 4年 七条京汰

### はじめに

私は今回 8 月 25 日から 9 月 16 日にかけてアメリカのワシントン州シアトルにあるワシントン大学に語学留学に参加しました。以下内容はワシントン大学留学での授業の様子、そしてシアトルでの生活や都市の様子など私自身のアメリカでの生活についての報告です。

### 1 ワシントン大学での授業の様子

私が今回参加したものは **Short-Term English Program (STEP)** という英語のレベルを向上させるためのプログラムでした。英語を学びに来ている人が大半を占めているので、クラス内は日本の大学に通っている人が多かったです。また、韓国やその他英語圏ではない国からの受講者も数名いました。私は知り合いになった韓国人に韓国語の単語を幾つか教えてもらったり、文化について教えてもらう機会があったりと、英語の能力向上だけではなく、さまざまな国の文化を知ったり交流する場面もあり、非常に有意義なものだったといえます。

**STEP** クラスでは午前は座学授業、午後はシアトルの見学などといった課外活動、という内容でした。私が入ったクラスでの座学授業は主に教師が提示したテーマに対するペア・グループ交流、テキストを使った文法の学習、英語による映画鑑賞、プレゼンテーションづくりと発表、などといったものでした。ここでは私が受講した座学の様子について記述していきます。

まず、講義中は基本的に日本語を話してはいけなく、英語でのコミュニケーションを要求されました。どんな場面でも積極的に英語を使うことによって、英語による表現力が増したように感じます。テーマに対する交流も同様に教師が英語で提示したテーマに関して学生同士で英語を用いて話し合い意見をまとめ発表する、という流れで行われました。テーマの内容はシアトルの特徴、日本とアメリカの違いや感じたこと、などといったものでした。各学生がそれぞれにさまざまな文化の違いを感じていて非常に興味深い交流でした。また、つくったグループで大学内にいる人たちにインタビューし

図 1 ワシントン大学図書館



筆者撮影

たり質問したりする活動もありました。自分から進んで現地にいる人たちに質問してそれに対して何を返答しているのか聞き取ろうとするインタビューの活動は日本での英語の授業ではあまり体験できるものではなく、リスニングの能力が非常に向上すると考えます。

テキストを使った文法学習では仮定法などといった文法事項を学んでいくものでした。日本で受ける文法学習と同じなのかと思いましたが、ここでも各文法事項や単語について英語で説明がされていたので、英語に対しての知見が広がり深まったと感じます。また、ネイティブスピーカーによる各文法の指導は、ネイティブスピーカーにしかわからない語感、文法感を交えた説明だったので、今までに受けて把握しているつもりだった文法の理解がさらに深まりました。

映画鑑賞は通常の英語で会話が進む映画に英語での字幕をつけて実際の会話や場面をわかりやすくする、といった形で行われました。授業で導入された当初は字幕があってもうましくないよう理解していくことが困難でしたが、徐々に慣れていき、内容の整理もできるようになっていきました。また、帰国してから同じ映画を日本語で鑑賞してみたのですが、英語で見ていた時とは受け取り方が若干異なるように感じました。授業の内容とは直接的な関係はありませんが、こういった映画の 2 か国語鑑賞によって日本語と英語の若干の語感の違いを感じ取ることができました。

プレゼンテーションは本クラスの最終課題でした。日本とアメリカ（シアトル）の文化の違いや価値観の違いに着目し、プレゼンテーションテーマを設定、その後テーマに沿って質問項目を作成し現地の人にインタビューして自分たちの発表に活用し、意見をまとめて発表する、といった内容のものでした。私が所属していたグループでは日本とアメリカのファッションの違いに着目して調査を開始しました。私がこのテーマを決定した理由は現地で日常を過ごしていて強く感じたことの 1 つとしてタトゥーに対する文化の違いがあったからです。実際に調べてみたところ、アメリカ全体でタトゥーを入れている人は 14%、年齢別にみると 18～25 歳が 36%、26～40 歳が 40%と日本よりもはるかに多くの人がタトゥーを入れていることがわかりました（Pew Research Center より）。これに着目して、私はタトゥーに対する現地の人々の意見についてインタビューをし、まとめました。結果的には、現地の人々はタトゥーに対して、入れている人も入れてない人もそこまで悪い印象を持っているという様子ではないことが明らかになりました。ここから、日本人とアメリカ人の価値観の違いを学ぶことができました。プレゼンテーションも英語で作成し、英語で発表するので、どのように英語の文章構成をしたらわかりやすいかなど考察しながら作成していったという点で英語力向上につながったと考えます。

## 2 シアトルでの生活

ここからはシアトルの様子や生活について記述していきます。アメリカの中でも大きな都市の 1 つとして数えられるシアトルですが、中心部の街並みは高層ビルが立ち並ぶ大都市圏、といった様子でした。一方で、シアトルが通称「エメラルドシティ」と呼ばれるよう

に、中心部のパイクプレイスマーケットやガスパーク、キャピタルヒルのボランティアパークなど伝統的な市場や自然豊かな公園や観光スポットもあり、都市部の発展的な街並みと自然の豊かさを両方楽しめる素晴らしいだつたといえます。また、シアトルマリナーズの本拠地セーフコフィールドやポップカルチャーの博物館 MOPOP、スペースニードルやジャッキーチェンの墓など現地で楽しめる観光地や施設が多々ありました。

シアトルは大きく上記のような特徴がありましたが、そのようなシアトルで生活した中で、私が日本とシアトルを比べて大きく異なると感じた点について 2 つ紹介します。

1 つ目は気候です。シアトルの気候は、朝はほとんど曇りか雨で肌寒くもあります。しかし、徐々に天候はよくなっていき、昼頃になると快晴になり日差しも強く半袖の T シャツでも過ごせるくらいの気温になります。日本では雨の日は 1 日中雨、といった天候が多いですが、シアトルは朝のみ雨が降るような天候でした。また、湿度も高くなく非常に過ごしやすい環境でした。

2 つ目は自転車の普及です。シアトルでは自転車を使って移動をする人が日本に比べて非常に多かったように思います。車道にも自転車兼右折専用の車道があり、同じ車道を車と自転車が通っていたりと、自転車の交通の扱いも日本とは大きく異なっていました。また、シアトルでは「Lime Bike」という乗り捨てができる自転車も数多くありました。これはスマートフォンのアプリと連携して Lime Bike が止まっている場所を検索し、予約、そして予約した Lime Bike についている QR コードを読み取って自由に使うことができる、というとても便利なものでした。料金も 30 分 1 ドルと安く、シアトル内のいたるところで見ることができました。

おわりに

以上をもって私のワシントン大学短期英語プログラムの報告とさせていただきます。今回の留学でシアトルでしか感じ取れない多くの経験や自身の英語力の向上、グローバルな価値観の獲得をできたと考えます。今回の学びを生かして、グローバルな立場に立って子どもたちに教育できる教師を目指していきたくと考えます。

図 2 シアトルの街並み



筆者撮影

図 3 Lime Bike



筆者撮影